

# “まちあるき”を題材としたインタープリテーション研修の展開

河野 宏樹（特定非営利活動法人これからの学びネットワーク）

キーワード：まちあるき、広島市

## 1. 広島でのインタープリテーション活動の現状

これまで私は、ホールアース自然学校にはじまり、愛知万博「森の自然学校」や各地での自然や環境を題材としたプログラムや研修を実施してきた。その中で、インタープリテーションは基本となる技術で、現場で活動する者にとっては必須と言えるものであった。

日本インタープリテーション協会のホームページから引用すると、「日本のインタープリテーションは「自然体験型の環境教育」の分野から広がったことや、国立公園が「自然公園」と定義され環境省によって管轄されていることなどから、全体に自然系に偏っている傾向がある」<sup>(※1)</sup>。広島県においても、自然環境分野で、NPO 法人三段峡・太田川流域研究会（通称：さんけん）のように、明確にインタープリテーション活動を標榜する団体はある<sup>(※2)</sup>。また、広島修道大学においても、「自然解説実習」の授業の中で、インタープリテーションの実習を行っている。しかしながら、広島でも全国的な傾向と変わらず、歴史・文化的な側面からのインタープリテーションの事例を聞くことが少ない。広島には、宮島や平和記念公園をはじめとする、世界的に有名な場所があるが、そこで行われているガイド活動は観光や平和教育の文脈で実施されている。平和記念公園を中心とした、ガイド活動は主にピースボランティアによって運営されているが、その研修内容にガイド手法やインタープリテーションの技術は含まれず、属人的な自己学習に頼っているのが現状だ。

## 2. まちづくり分野でのガイド活動

私が理事として関わる NPO 法人ひろしまジン大学では、2010 年の設立以降、広島県内の様々な場所を教室として、「広島を学ぶ、人に学ぶ」を合言葉に、広島の魅力を体感する”授業”を実施してきた。この活動の中でも、特に体系だったインタープリテーションに関する研修をしてきたわけではないが、先生や授業コーディネーターがインタープリター的な役割を果たしてきた。近年では、ひろしまジンのプロジェクトのひとつであった”ジンとりっぶ”が、有料のまちあるきプログラムとしてリリースされた<sup>(※3)</sup>。”ジンとりっぶ”は、先行している京都のミニツアー”まいまい京都”や、名古屋における”大ナゴヤツアーズ”といった同様の事例を参考に、少人数で体験型のガイド体験ができるように設定されている。

このようなまちづくり分野でのガイド活動においても、インタープリテーションの技術は重要であり、ひろしまジン大学でも主催事業として”ひろしまインタープリテーションスクール”として 2024 年 3 月に広島市で研修を実施した。本研修では、日本インタープリテーション協会の西村仁志氏と私が講師となり、広島県下のまちづくり分野でインタープリテーションに興味のある方 10 名とワークショップ形式でイン

タープリテーションの技術を学んだ。

## 3. ひろしまインタープリテーションスクール

ひろしまインタープリテーションスクールは 2 日間で構成されており、1 日目はインタープリテーション概論の後、資源調査を兼ねた”まちあるき”を実施した。まちあるきは、会場であるゲストハウス”マチゴト”（広島市西区草津）を中心に、草津の町並みを散策した。草津には酒蔵や名物”がんず”の工場や寺社仏閣など歴史・文化的な資源が数多くある。原子爆弾による直接的な被害も大きくなかった地域のため、古い建物もところどころに見ることができる。参加者はこれらの資源を確認しながら、実際にインタープリテーションをする場所やテーマを絞り込んでいった。参加者は、テーマ文章の作成に熱心に取り組んだが、比較的難易度の高い作業であり、時間をかけていた。

2 日目は、準備時間の後、一人ずつインタープリテーションを実施した。実施者は、城趾や、おみくじ、花、といった様々な題材を用いたプログラムを提供し、参加者がお互いに体験を共有した。これらの内容は動画撮影し、現場でのフィードバックのみならず、自分自身で内容をチェックできるようにした。初回の実施としては、技術力のある参加者もあり、比較的レベルの高い研修となった。

参加者が抱える問題点としては、以下が挙げられる。

- 1) テーマ文書の完成度が低い
- 2) 体験とテーマの乖離
- 3) 内容の過剰な盛り込み
- 4) 実施場所の選定と活動の展開方法の検討が不十分

参加者の持っている問題点は一般的なものであり、他の研修でもよく取り上げられるものである。”ジンとりっぶ”のような事業でも参考になる内容であり、まちづくり分野でも積極的なインタープリテーションの導入が予想される。今後、ひろしまインタープリテーションスクールのような研修を各地で開催し、インタープリテーションの概念をまちづくりの分野でも広めることにより、より質の高いプログラムが広島県下で提供されることを期待したい。

## 参考文献

- 1) 日本インタープリテーション協会、『これからのインタープリター育成への考え方』, <https://interpretation.jp/nextgen>
- 2) NPO 法人三段峡・太田川流域研究会、『見えないところを伝える、通訳者』, <https://sanken-hiroshima.org/interpretations>
- 3) NPO 法人ひろしまジン大学、『ジンとりっぶ』, <https://jintrip.net/>